

たんぽぽの
夕日

田里友邦

子を信じ成長の機会を

「子ども電話董神」の活動で大切にしている姿勢の一つが、意見の押し付けやお説教をせず、どうしたらいいか、子どもと共に考えることです。董神は、自死で命を失う若者が増えている現状に胸を痛め、話すことで少しでも気持ちが楽になってほしいとの思いから始めましたが、もつ一つ大きな目的は「子どもが自らの気持ちと向き合い、自ら考え、自ら決める」機会を提供することです。

社会に出ると主体性が求められますが、それは一定の年齢になれば誰でも自然に身に付くものではなく、子どもの頃から自分の思いを否定されることなく受け容れられ、聴き手の適切な質問を通して思考を深め、自らの気持ちと向き合い、決断する経験が必要です。うまくいかなかった時にも諦めることなく、どうしたらうまくいくかを試行錯誤し続け、自己実現の経験を積み重ねることで、少しずつ自己肯定感や主体性が養われていくと考えています。

多くの大人は子どもに対して、自らの価値観や社会の常識に基づいて評価したり、助言・指導したりしがちです。もちろん、指導や助言が必要な場面は多々ありますが、世の中には答えが一つでない問題や、答えがない問題が多くあります。子どもが将来、さまざまな危機に直面した際に自ら乗り越える力は、周りの目や社会の常識にとらわれることなく、自身の気持ちと向き合って論理的に思考し、模索を続ける習慣を通して養われるものです。そのような意味で、子どもが自ら考え、自ら決める機会をつくることは、広い意味で自死予防につながるのではないかと考えています。子どもの力を信じることで、成長する機会を奪わない姿勢が、大人には求められています。

(一般社団法人子ども電話董神理事長)